

ヴェドゥータ（景観画）の巨匠 カナレットとヴェネツィアの輝き

SOMPO 美術館（西新宿）2024. 10. 12～12. 28 静岡、京都、山口に巡回

18世紀の景観画の巨匠「カナレット」(1697～1768)は、ただでさえ絵になる夢とまるで写真のようなヴェネツィアの景観画“ヴェドゥータ”を描いた画家で、本展は「スコットランド国立美術館」などの英国コレクションを中心に、油彩、素描、版画など「約60点」の作品が公開される日本初の展覧会開催である。

画伯の作風は、「魚眼レンズ風」に捉えているため、現実には到底不可能な広角パノラマを見ることができ、ただでさえ「絵」になる「ヴェネツィア」に、さらに手を加えて誰もが持ち帰りたくなる臨場感溢れる「絵画」に仕立ている。



カナレット 《昇天祭、モーロ河岸に戻るプチントーロ》1940年頃 油彩

5～6月に執り行われるヴェネツィアの大イベントで、右手の建物が「ドゥカーレ宮」で手前に浮かぶ「金のガレー船」はドージェが乗るプチントーロ。

カナレット 《カナル・グランテスのレガッタ》1935年頃 油彩/カンヴァス

ヴェネツィアを代表する祝祭「レガッタ（ゴンドラレース）」を描いた作品で、両側の建物から数多くの見物客が顔を出しており熱狂の程が伝わってくる。



本展では、「カナレット」以前のヴェネツィア絵画も紹介されている。

ティエポロ 《アントニウスとクレオパトラの出会い》

1747年頃 油彩/カンヴァス 66.8x38.4cm

ヨーロッパ中で名声を得たヴェネツィア派の最後の巨匠の貴重な作品である。

エディンバラ・スコットランド国立美術館蔵

雑誌「芸術新潮」75：(8) 72～78、2024 参照。